

## 第 1 回環境総合計画部会 委員の主な意見と府の考え方

委員名	意見	意見に対する府の考え方
逸見委員 石井委員	環境総合計画には、目標が書かれているが、目的も書いたほうがよいのではないか。	環境総合計画では、 <b>2050</b> 年の将来像という長期的な目標からバックキャストिंगをして <b>2020</b> 年の目標を定め、その目標に向かって施策の方向と主な施策を並べて書いています。このため長期的な目標が目的に該当するものであると考えられます。
高村委員	複数年毎の点検・評価のタイミングは、議会の予算措置前に行われる必要があると思うが、次年度に効果的に措置が入るようなタイミングでの実施を検討いただきたい。	予算措置のタイミングに合うように、環境総合計画部会を開催できるよう調整します。
高村委員	府民から広く意見を聴取するタイミングは、部会の中でそれらの意見を踏まえて点検・評価をできるようにするため、部会の議論の過程で行われるべきだろうと思います。	複数年毎のサイクルにおける点検・評価については、パブリックコメントの結果を含めて、部会で議論いただけるように調整します。
高村委員 槇村委員	府民意見の聴取方法は、パブリックコメントのような従来の形もあるが、直接対話方式で府民から意見を率直に出してもらうような場を複数年毎のサイクルの点検の中では入れていただくのがよいのではないか。	複数年毎のサイクルの進行管理におけるパブリックコメントに加えて、毎年度サイクルの進行管理において、府民・事業者・行政により構成される「豊かな環境づくり大阪府民会議」のような既存の場などを活用して、広く府民からの意見を聴取する方法を検討していきます。

委員名	意見	意見に対する府の考え方
高村委員 榎村委員 坂東委員	2014年、2017年に点検・評価を行う際、目標の達成状況がどうなっているかを見る上で、中間的な目標の設定というのは非常に重要であるので、できる限り設定をしていただきたい。	中間的な複数年の点検・評価をするときには、可能な限り点検評価の目安となる数値を設定の上、施策評価レポートを作成し、今どういう段階にきていて、順調かどうか分かるようにします。 中間的な目標を設定することが難しい場合も、2020年に向かって順調にしているのかどうか客観的にわかるように指標を設け施策評価レポートに記載します。
高村委員	個別の実行計画でも同様の点検サイクルがあるが、うまく連携をして点検等をしていただきたい。	個別の実行計画は、その分野について詳細に進行管理を行い、また、環境総合計画ではそれぞれの分野の重点部分を中心にした進行管理を行っているところです。進行管理を行うにあたっては、各個別の計画の所管室課とも連携しながら進めてまいります。
榎村委員	部会で行政の施策実施者と直接意見交換を行う場を設定いただけないか。	毎年度サイクルの進行管理の環境総合計画部会の場合において、重点的に進行管理する分野の担当者から施策・事業の進捗状況を説明してもらう予定です。
石井委員	中間目標の設定は、事前にしておいた方がよい。	中間目標の設定は、複数年毎のサイクル時に評価ができるように、可能な限り事前に設定します。
逸見委員	北海道や福岡県、神戸市など各自治体で、マル・バツ式や点数表示、A、B、Cの形、文言によるものなどで評価を行っているので、それを集めて、どれが適切なのかという御提案をしていただきたい。	今後、進行管理を行っていく中で、よりわかりやすくなるようにしていきたいと思います。

委員名	意見	意見に対する府の考え方
高村委員	最初の複数年毎のサイクルの評価までの <b>2012</b> 年、 <b>2013</b> 年に、部会の中で議論をして、評価指標や手続、評価の目的などを決めていくのがいいのではないか。	複数年毎のサイクルの評価の前年度（ <b>2013</b> 年）までに、これまでの進行管理の状況を踏まえ、複数年毎のサイクルの評価の詳細を明確化します。
坂東委員	工程表を用いた進行管理について、期間が区分されていない分野があるので、今後のこの部会を進めていく上で、中間的な目標と、どこにそのゴールを設定しているかわかるように作っていただきたい。	施策によっては、従来から継続している工場規制など期間を区分するのがなじまないものもあるが、計画策定中などにより中身が明確になっていないものもあるため、今後、当該分野の計画の策定などに合わせて、より詳細な工程表による進行管理ができるよう検討していきます。